

登録コード	UAF01500	開講年度	2026			
授業題目	人間の精神と社会環境特論				担当教員	越智 康詞
					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・4時限	
			授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学					
	【心理・長野臨床以外】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	人間の基本特性（学び、協力、道具の活用）を理解し、子どもの性質や学びの構造への理解を深めるとともに、総合的な視点からカリキュラム（特に、総合的な学習や特別活動）を構想できるようになる。
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	人間の自己形成や精神の状態について社会環境との関係で理解できるようになる。
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	人間の自己形成や精神の状態について社会環境との関係で理解できるようになる。
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	人間の自己形成や精神の状態について社会環境との関係で理解できるようになる。
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	人間の自己形成や精神の状態について社会環境との関係で理解できるようになる。
(2)授業の概要	まずは、私たちの常識となっているデカルト的二元論やプラトンの本質主義から解放され、スピノザ的な関係論的視点を学ぶ。人間の傾向性（社会的存在としての性質）を理解するだけでなく、人間を取り囲み巻き込む社会の傾向性を理解する。続いて、私たちがその中に生きる社会や制度や環境がいったいどのようなものなのか、その傾向性や構造を理解する。資本主義や新自由主義などマクロな傾向性から、家族、学校、地域、メディアなど人間（子ども）を取り巻く制度的環境が人間のこころ（精神）にとつてどのような意味をもつものなのかについて、様々な観点からアプローチする。講義ではあるが、受講生は受動的に話を聞くのではなく、受講生自身が、自ら文献資料や様々な情報源から情報を集め分析し、そこで得られた知見を提示＝共有しながらディスカッションし、社会とところのかかわりについて互いに理解を深め合う。また、ディスカッションでは、そうした（正解のない）社会の課題に対し、いかにして対応すればよいか、個別相談的な方法に加え、どのような社会づくりが必要であるかについても同時に考えられるようになる。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス：人間とは何か（心の進化）。関係論的存在。システム療法に学ぶ。 第2回：家族（精神の土台。社会化空間） 第3回：家族（近代家族の構造、現代家族の病理：理念と現実、私事化） 第4回：学校（アソシエーション、子ども期・中間の間、競争社会からの距離） 第5回：学校（教育・道徳の逆説、パターナリズムの罠、全体的制度・管理） 第6回：効率優先の社会・制度設計。アーキテクチャ（郊外に特徴的な街の設計） 第7回：メディア空間（SNS。つながりの社会性。若者論。） 第8回：新自由主義・自己責任。現代社会と生きづらさ（コミュ障って何？）。労働者。 第9回：資本主義の構造。広告・マーケティング、依存症ビジネス・消費社会 第10回：デカルト的二元論の罠。人間至上主義と人類の未来。 第11回：言葉、物語、身体、感情の社会学（知者の生きる道） 第12回：対話サークル。子ども哲学（哲学をメディアとした関係づくり） 第13回：コミュニティ設計、ボランティア・社会関係資本、共生社会 第14回：リフレクションの道具としての社会学（スピノザの哲学、障害の社会モデル） 第15回：まとめ・授業アンケートの実施 期末試験 無					
(4)成績評価の方法	毎回の調べ学習等の準備や当日の報告、ディスカッションへの参加60%。最終レポート40%。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(5)成績評価の基準	報告担当に当たった場合、その準備を整え、議論をリードできれば水準にある。報告担当者として、あらかじめ問題や疑問点をしらべ、他の受講生からの質問に適切に応答できればやや上にある。与えられた課題を超えて、自ら課題をみつけ問題を提起し、議論をリードできればかなり上にある。自ら報告者でないケースでも、独自の課題を見出し、討論を盛り上げ、参加者の学びが深まるようリードできれば卓越している。レポートにおいては、（1）課題設定が適切であり、（2）問題の背景を説明し、（3）問題の構造を適切に捉えられており、（4）解決の方法を示唆し、（5）残された課題も明示されていれば、卓越している。2項目以上できれば水準にある。3項目できていればやや上にある。4項目できていればかなり上にある。					
(6)事前事後学習の内容	毎回の「授業」において、次回の購読範囲を指定するので、いかに困難でも最後まで読み通し、理解を超える部分については質問・討論のテーマとしてもってくる。報告者の担当にあたっている者は、レジュメかパワポを作成し、難しい言葉や重要な人物については、適切な資料をもちいて調べ、全員に説明					

(6)事前事後学習の内容	できるように準備する。この授業は90時間の学修を必要とする内容です。 従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(7)履修上の注意	毎回の講義に於いて文献等を通して自ら情報を収集し、報告し、討論に参加することが基本。また、報告者となったときには、疑問を予め調べて解決し、メンバーに理解できるよう説明し、問題を提起し、議論をリードする。
(8)質問,相談への対応	オフィスアワーの実施場所:N313, 曜日, 時間（在室の時はいつでも）, 授業担当者の連絡先 （研究室電話番号026-238-4218, メールアドレス: yasushi@shinshu-u.ac.jp)
【教科書】	特になし
【参考書】	適宜指定する。